

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

1. 名称 (他のプログラムと容易に区別できること)

島根大学総合医・家庭医養成プログラム ver. 2.0

2. プログラム責任者

氏名	木島 庸貴	指導医認定番号	2012-189 号
所属・役職	島根大学総合医療学講座 助教		
所在地・連絡先	住所 〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1 電話 0853-20-2635 FAX 0853-20-2634 E-mail kijima@med.shimane-u.ac.jp		
連絡担当者氏名*・役職	足立 知美・医局秘書		
連絡先*	電話 0853-20-2635 FAX 0853-20-2634 E-mail tadachi@med.shimane-u.ac.jp		

* プログラム責任者と別に連絡担当者がある場合にのみ記載

3. 専攻医定員

1 年あたり (3) 名 (×研修期間年数=総定員 9 名)

※総合診療専門研修 I および II において、日本プライマリ・ケア連合学会専門医・認定医認定制度要綱 28 条に定める常勤指導医を、その部署で同時に研修する専攻医 3 名に対して 1 名以上配置できる人数に留めること。例えば、総合診療専門研修 I が 9 カ月の場合、3 名ずつが 9 カ月毎にローテートするならば、3 年=36 カ月のプログラムで 1 年あたり最大 4 名 (36÷9=4) まで受け入れ可能となる。

4. プログラムの期間

(3) 年間

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

5. 概要
<p>A. プログラムを展開する場や医療施設の地域背景や特長</p> <p>当プログラムは、島根県内の様々な研修施設を利用しながら県全体で協力して医師を育成する内容となっている。</p> <p>県内の他の家庭医療後期研修施設と連携して家庭医療のコアとなる考え方や common disease に対する知識・技術の学習、医療面接・コミュニケーションなどのトレーニングを3年間継続して行う。また同時に、ポートフォリオ作成支援、定期的な振り返りを行いながら研修医の成長をサポートする。</p> <p>おおまかには大田市・出雲市・浜田市の比較的医療資源が豊富なエリアでの研修と、離島や中山間地域といった田舎型の地域での外来診療・在宅診療・地域ケアの研修を行い、個々人の学習状況及び本人の希望を考慮して、県外での施設で研修することも可能である。</p> <p>当プログラムの基本構造(モデルとなるローテーション)は、診療所で働く家庭医を想定した内容となっている。しかし島根県は、中小病院で勤務する総合医・家庭医の絶対数が不足しており、主に中小病院で勤務する診療スタイルでの家庭医療専門医を希望するニーズにも対応できる内容としている。そのため、個々のニーズに対応できる様に既定の範囲内で総合診療研修ⅠとⅡの期間を調整できる様に設定している。</p>
<p>B. プログラムの理念、全体的な研修目標</p> <p>後期研修終了時には、家庭医療の実践者として最低限の知識・技術を備えているだけでなく、医療提供者として基礎となる態度領域が十分に身につけていることを目標としている。</p> <p>態度領域は、日々の実践の場で指導者とのディスカッション、カンファレンスでのフィードバック、またポートフォリオの作成、定期的な振り返りを行うことによって磨いていき、研修終了後も自己の経験を振り返り、生涯を通じて成長していく力を持つ医師を育成していく。</p>
<p>C. 各ローテーション先で学べる内容や特色</p> <p>島根県には、県内中に総合医・家庭医としてのマインドを持ち、心優しく地域住民の頼りになる医療を提供できる医療者が豊富に存在する。そういった医療者のバックグラウンドは、元々総合医としてのバックグラウンドを持つものから、臓器別専門医まで様々である。臓器別専門医と総合医との垣根は徐々になくなってきており、両者で共同して医療を提供し、後進を育成する機運が高まってきている。</p> <p>救急研修では、大学病院で救急専門医及び臓器別専門医と協力して小児～高齢者、外傷も含めた1次～3次救急を学び、小児科研修・内科研修では各科専門医のもと common disease を学ぶ環境にある。また総合診療Ⅰ、Ⅱではいくつかの医療機関のうち本人のニーズ・その際の研修施設の環境を考慮して研修施設を選択し、各地域にて熟達した総合医のもとで豊富で幅広い経験を培い、またどの医療機関での研修期間中も県内の後期研修医と週1回の合同勉強会をテレビ会議システムを用いて行う。</p>
<p>D. 指導体制に関する特長</p> <p>研修施設単位で、学習者に定期的に省察を促す取り組みが既に行われてきている。研修医は様々な施設で研修を行うことになるが、各施設の指導者とプログラム責任者が情報交換をしながら研修医の学習状況を把握する。</p> <p>また離れていてもテレビ会議システムによって、定期的にプログラム責任者をはじめとした複数の指導者とコミュニケーションをとることができる環境にあり、研修医の成長を見守る体制を確保している。</p>
<p>E. 医療関係職種、保健・福祉関係職種、地域の住民、医療機関の利用者などの協力を得る方法</p> <p>すでに地域住民、保健・福祉・行政との連携が深まっている医療機関が多く、全ての研修施設で医学生または研修医の受け入れを行っている。</p> <p>総合医・家庭医の研修医を受け入れ、育成していくことに対して全ての施設の医療関係者、住民、行政が理解を示している訳ではないが、総合医・家庭医への理解は徐々に深まってきており、受け入れへの抵抗は減ってきていると思われる。</p> <p>ただ、それは医療機関や地域によって異なり、理解を促進すべき医療機関・地域においては、地域住民及び医療関係者、行政との対話を研修医の受け入れを機に積極的に行っていく必要があると思われる。研修環境がどのような状況にあるのかについては、定期的に研修医からも聞き取りを行う予定にしている。</p>

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

F. その他
特になし

G. モデルとなるローテーション例

1年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	救急	救急	救急	内科	内科	内科	内科	内科	内科	小児科	小児科	小児科
2年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ
3年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	その他	その他	その他	その他	その他	その他

※「総診Ⅰ」、「総診Ⅱ」、「内科」、「小児科」、「救急」、「その他」という表記で記入してください。

H. プログラムの全体構成（月単位の換算による）

総合診療 専門研修	総合診療専門研修Ⅰ (12) カ月		総合診療専門研修Ⅱ (6) カ月	
領域別 研修	内科 (6) カ月	小児科 (3) カ月	救急科 (3) カ月	その他 (6) カ月

※救急科が兼任研修の場合の記載法：例えば内科8カ月、小児科4カ月の間週1回救急科研修したら、内科6カ月、小児科3カ月、救急科3カ月というふうに、本来の研修先の研修期間（この場合内科+小児科の12カ月）のうち救急科研修の期間をプログラムに必要な長さにとり、本来の研修先の研修期間（内科8カ月と小児科4カ月）は救急科研修の期間を減じた形（内科は8→6カ月、小児科は4→3カ月）で記載して下さい。

6-1. 総合診療専門研修Ⅰ

研修施設名 1	大曲診療所	診療科名 (内科・外科・小児科)	
施設情報	<input checked="" type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 病院	施設が病院のとき → 病院病床数 () 床 診療科病床数 () 床	
総合診療専門研修Ⅰにおける研修期間		(6~12) カ月	
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり		
<small>※同一施設で3カ月以上ずつの2ブロックに分けることのみ可能。 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい。</small>			
指導医氏名 1	藤原 和成	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号 (2012-207号)
指導医氏名 2		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号 ()
指導医氏名 3		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号 ()
※常勤指導医を確保できない場合、 <u>指導医の特例</u> についての申請書が必要（審査有）			

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

要件（各項目の全てを満たすとき、を塗りつぶす（■のように））

ケアの内容	
<p>■外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど</p> <p>■訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事</p> <p>■地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加</p>	
施設要件	
<p>■患者層：研修医の経験する症例は、学童期以下が5%以上、後期高齢者が10%以上である。</p> <p><input type="checkbox"/>上記の要件を満たさないが、他の方法で研修を補完している。（※小児科を有する病院で実施するプログラムは基本的に記載要）</p> <p>具体的な補完方法（ ）</p>	
<p>■アクセスの担保：24時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。</p> <p>具体的な体制と方略（ 同一法人の救急病院である出雲市民病院と連携しており、夜間の受診についてはその救急外来受診で対応している。在宅患者は24時間携帯電話で診療所医師と連絡がとれる体制をとっている（在宅療養支援診療所）</p>	
<p>■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。</p> <p>具体的な体制と方略（ 当施設は、この地で診療を開始し50年近くの歴史を持ち、長い歴史の中で地域住民との絆を大切にしている。外来診療はゆるやかな主治医制をとり、予約制ではないが次回受診日を決め継続的に関わっている。慢性疾患患者が診療を中断した場合は、定期的に電話連絡をしている。訪問診療は主治医制で、在宅療養支援診療所として24時間365日のサポート体制をとっている。看取り後も自宅に伺ってグリーンケアを行い、家族のケアを通じ継続した関係を目指している。 ）</p>	
<p>■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。</p> <p>具体的な体制と方略（ 乳児から高齢者まで幅広い年齢層に対し、急性期・慢性期の外来診療、特定健診・企業健診などの予防医学的アプローチ、小児を中心とした予防接種、訪問診療・往診による在宅での医療活動を行っている。また保育園の園医を3カ所、250人を担当しており、各園年2回の園児健診も行っている。 ）</p>	
<p>■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。</p> <p>具体的な体制と方略（ 当施設に、通所リハビリ、訪問リハビリ、訪問看護ステーションを有しており施設内連携を行っている。近隣には県立中央病院、島根大学医学部附属病院があり、紹介・逆紹介はスムーズな関係を築いている。法人内の出雲市民病院は在宅療養支援病院で、当施設と連携関係にあり月1度のカンファレンスを行っている。在宅医療が活発であるため、地域の介護保険サービスとの連携は密に取り合っている。地域の訪問看護師との連携ワークショップや学習会などの企画も行い出雲地域でリーダーシップ的役割を担っている。 ）</p>	
<p>■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。</p> <p>具体的な状況（ 急性期・慢性期だけの外来診療対応ではなく、小児予防接種、禁煙外来、健診活動、在宅医療など幅広い年齢の構成員が家族単位として利用できる、かかりつけ医としての体制を持っている。またカルテには必ず家族図を記載するようにしており家族のつながりがわかるように心がけている。）</p>	
<p>■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。</p> <p>具体的な内容と方法（ 医療生協法人の特徴である生協組合員の健康予防に関する取り組みに積極的に関与している。転倒予防体操や健康チェック、ウォーキングなど組合員が集まり健康学習を行う場に参加をする。年に数回、地域のコミュニティーセンターに於いて医療講演会も実施しており、研修医にも演者として参加してもらう。）</p>	
<p>■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している。</p> <p>それぞれの概ねの頻度（ 実患者数100名、月220回以上の訪問診療、在宅での看取りも毎年10名以上を行っている。自宅だけではなく、認知症対応型グループホーム、特定施設にも訪問診療に伺っている。胃瘻、気管切開、膀胱瘻カテーテル、人工呼吸器使用など医療依存度の高い方も積極的に受け入れており、ターミナルや困難事例の場合、ケアマネや訪問看護など関係者でカンファレンスを開き情報共有、意志決定を行える地域連携体制も構築している。）</p>	
週当たり研修日数：（ 4～4.5 ）日	
総合診療専門研修Ⅰの研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修内容とその日数	
内容	ポータルサイトの作成支援・家庭医療カンファレンス 島根県内の家庭医療後期研修医との週一回のテレビ会議による参加、教育レクチャー（家庭医の特徴、診療技術、地域包括ケアの意味など）を週0.5日行う。また、領域別研修（整形外科・精神科・産婦人科・耳鼻科・眼科・泌尿器科など）の外来研修も週0.5日並行して行う。
日数	0.5～1日/週

6-1. 総合診療専門研修Ⅰ		
研修施設名	大田シルバークリニック	診療科名（内科、神経内科、老年科）
施設情報	■診療所 <input type="checkbox"/> 病院	施設が病院のとき → 病院病床数（ ）床 診療科病床数（ ）床
総合診療専門研修Ⅰにおける研修期間		（ 6～12 ）カ月
研修期間の分割	■なし <input type="checkbox"/> あり	
※同一施設で3カ月以上ずつの2ブロックに分けることのみ可能。 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい。		

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

指導医氏名 1	岡田 和悟	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2012-40 号)
指導医氏名 2		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	()
指導医氏名 3		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	()
※常勤指導医を確保できない場合、 <u>指導医の特例についての申請書</u> が必要 (審査有)				
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (<input checked="" type="checkbox"/> のように))				
ケアの内容				
<input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど <input checked="" type="checkbox"/> 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加				
施設要件				
<input type="checkbox"/> 患者層：研修医の経験する症例は、学童期以下が 5%以上、後期高齢者が 10%以上である。 <input checked="" type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他の方法で研修を補完している。(※小児科を有する病院で実施するプログラムは基本的に記載要)				
具体的な補完方法 (少子高齢化の中で学童の割合が 5%以上となるかはわからないが、地域の小児科の診療のかなりの部分を大田市立病院が担っており、大田市立病院小児科で週 1 回外来診療等を行うことにより補完する。)				
<input checked="" type="checkbox"/> アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。 具体的な体制と方略 (在宅療養支援診療所として他の複数の診療所と共同で 24 時間対応できる体制をとっている。)				
<input checked="" type="checkbox"/> 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。 具体的な体制と方略 (入院が必要な症例では、大田市立病院の開放病棟を利用した入院対応も実施しており、病状の変化に対しても継続的な関わりが可能である)				
<input checked="" type="checkbox"/> 包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。 具体的な体制と方略 (診療所としての制約はあるも、急性期から慢性期にかけて広い年齢層に対応しており、訪問診療を含めた緩和ケアも可能である)				
<input checked="" type="checkbox"/> 多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。 具体的な体制と方略 (大田市立病院や島根大学医学部付属病院との病診連携や診療所間や施設との連携協力が図られている。また訪問看護ステーションや地域包括センターなどとの連携も密に行っている)				
<input checked="" type="checkbox"/> 家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。 具体的な状況 (比較的限定された範囲を診療圏としており、古くからの地縁の中で、顔の見える関係が自然に構築されている。)				
<input checked="" type="checkbox"/> 地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。 具体的な内容与方法 (認知症の専門対応も行っており、医療講演や勉強会、啓発活動も地域での中核的な立場で実践している。)				
<input checked="" type="checkbox"/> 在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している。 それぞれの概ねの頻度 (訪問診療を実施し、緊急の入院の手配や緩和ケアにも、他の医療機関とも協力しながら対応している。)				
週当たり研修日数：(4) 日				
総合診療専門研修 I の研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる研修内容とその日数				
内容	小児診療の研修は、大田市立病院小児科にて週 0.5 日の外来研修を行うことで補完する。ポータルサイトの作成支援・家庭医療カンファレンス 島根県内の家庭医療後期研修医との週一回のテレビ会議による参加、教育レクチャー (家庭医の特徴、診療技術、地域包括ケアの意味など) を週 0.5 日行う。また、領域別研修 (整形外科・精神科・産婦人科・耳鼻科・眼科・泌尿器科など) の外来研修も週 0.5 日並行して行う。			
日数	1.5 日/週			

6-1. 総合診療専門研修 I				
研修施設名 3	隠岐島前病院	診療科名 (内科・外科・小児科)		
施設情報	<input type="checkbox"/> 診療所 <input checked="" type="checkbox"/> 病院	施設が病院のとき → 病院病床数 (44) 床 診療科病床数 (44) 床		
総合診療専門研修 I における研修期間		(6~12) カ月		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり			
※同一施設で 3 カ月以上ずつの 2 ブロックに分けることのみ可能。 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい。				
指導医氏名 1	白石 吉彦	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2013-567 号)
指導医氏名 2	白石 裕子	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2013-566 号)
指導医氏名 3		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	()

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

※常勤指導医を確保できない場合、指導医の特例についての申請書が必要（審査有）

要件（各項目の全てを満たすとき、を塗りつぶす（のように））

ケアの内容

- 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど
- 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事
- 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加

施設要件

- 患者層：研修医の経験する症例は、学童期以下が5%以上、後期高齢者が10%以上である。
上記の要件を満たさないが、他の方法で研修を補完している。（※小児科を有する病院で実施するプログラムは基本的に記載要）
 具体的な補完方法（ ）
- アクセスの担保：24時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。
 具体的な体制と方略（島に唯一の有床施設であり、また唯一の24時間体制の医療機関であるためおのずと、24時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制となっている。）
- 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。
 具体的な体制と方略（入院から外来、在宅医療を担当する事が可能である。）
- 包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。
 具体的な体制と方略（島で唯一の救急告知病院であり、同時に療養型を併設している。また積極的に往診、訪問診療、在宅での看取りをおこなっており、ほぼシームレスに急性期から慢性期を支えている。また健康教室や町の健康づくりにも積極的に参加している。）
- 多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。
 具体的な体制と方略（病院周囲の医療機関とは医師の勤務を一体管理をしており、電子カルテはお互いに連携しているため、病院一診療所間では連携は非常に良好である。また月に2回病院内に介護福祉施設、在宅スタッフと病院スタッフが集合し、全体のサービス担当者会議を開催し、個別のケースを通じて適切な連携を図っている。）
- 家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。
 具体的な状況（小児の予防接種、健診などを通して0歳児からかかわっており、また老人ホームの嘱託医として週に1回は老人ホームの定期健診を行っている。外来診療形態も内科・小児科と一体化した形での診療を行っている。）
- 地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。
 具体的な内容と方法（各地区へ出かけて健康教室などを行い交流をはかっている。西ノ島町健康づくり推進協議会の一員としてタバコ、酒、自殺予防など様々な活動を働き盛りの健康増進のために事業所などへも出かけている。）
- 在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している。
 それぞれの概ねの頻度（ 50件/5名の医師/月、年間在宅看取り約10件/年、老人ホーム看取り約15件/年 ）

週当たり研修日数：（ 4～4.5 ）日

総合診療専門研修Ⅰの研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修内容とその日数

内容	ポータルサイトの作成支援・家庭医療カフェ 島根県内の家庭医療後期研修医との週一回のテレビ会議による参加、教育レクチャー（家庭医の特徴、診療技術、地域包括ケアの意味など）を週0.5日行う。また、領域別研修（整形外科・精神科・産婦人科・耳鼻科・眼科・泌尿器科など）の外来研修も週0.5日並行して行う。
日数	0.5～1日/週

6-1. 総合診療専門研修Ⅰ

研修施設名4	津和野共存病院	診療科名（内科、神経内科、循環器内科、小児科等）	
施設情報	<input type="checkbox"/> 診療所 <input checked="" type="checkbox"/> 病院	施設が病院のとき → 病院病床数（ 99 ）床 診療科病床数（ 50 ）床	
総合診療専門研修Ⅰにおける研修期間	（ 6～12 ）カ月		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり		
※同一施設で3カ月以上ずつの2ブロックに分けることのみ可能。 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい。			
指導医氏名1	須山信夫	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号 (2013-306号)
指導医氏名2	飯島献一	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号 (2014-0535号)
指導医氏名3		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号 ()

※常勤指導医を確保できない場合、指導医の特例についての申請書が必要（審査有）

要件（各項目の全てを満たすとき、を塗りつぶす（のように））

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

ケアの内容	
<p>■外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど</p> <p>■訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事</p> <p>■地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加</p>	
施設要件	
<p>■患者層：研修医の経験する症例は、学童期以下が5%以上、後期高齢者が10%以上である。</p> <p><input type="checkbox"/>上記の要件を満たさないが、他の方法で研修を補完している。（※小児科を有する病院で実施するプログラムは基本的に記載要）</p> <p>具体的な補完方法（ ）</p>	
<p>■アクセスの担保：24時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。</p> <p>具体的な体制と方略（かかりつけ医として、訪問診療患者また老人保健施設と特別養護老人ホームの協力病院の機能も果たしており、当該患者に対して訪問看護ステーションと協力し24時間体制で対応する。）</p>	
<p>■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。</p> <p>具体的な体制と方略（一般病床、亜急性期病床に加え、同一経営基盤のもと、診療所、老人保健施設、在宅専用診療所、訪問看護ステーションを運営しており、病態の推移に応じて継続的な診療が可能である。）</p>	
<p>■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。</p> <p>具体的な体制と方略（健診、各種の予防啓蒙活動も積極的に行っており、癌あるいは非癌の緩和ケアについても、在宅療養・施設療養の両面から担当している。）</p>	
<p>■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。</p> <p>具体的な体制と方略（益田二次医療圏内の急性期病院とも連携室等を通じた密接な協力関係を構築しており、同一建物内の地域包括支援センターと日々情報交換し、特別養護老人ホーム、グループホームは訪問診療を行っており連携を密に行っている。）</p>	
<p>■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。</p> <p>具体的な体制と方略（前身は厚生農業協同組合連合会立の病院であり、その時代より祖父母から父母、子、孫へと調子が悪ければ同院をまず受診するという受療行動が一般的であったため、その伝統をひきつぎ年代の異なる同一家族の構成員が受診することが多く、家族としての健康のデータが蓄積されている。）</p>	
<p>■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。</p> <p>具体的な体制と方略（認知症、生活習慣病等の研究会や講演会、院内健康教室等も実施しており、また行政の地域医療対策課（地域包括支援センターを含む）が病院内に設置してあり行政とともに地域の課題を解決し町行政の活動などへの積極的な協力も含め健康維持増進の活動を計画的に実施している。）</p>	
<p>■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している。</p> <p>具体的な体制と方略（在宅専門の診療所を設け、病院常勤医師により隙間のない診療がなされており、緊急の入院や在宅の看取りにも対応している。）</p>	
週当たり研修日数：（4～4.5）日	
総合診療専門研修Ⅰの研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修内容とその日数	
内容	ポータルサイトの作成支援・家庭医療カレッジ 島根県内の家庭医療後期研修医との週一回のテレビ会議による参加、教育レクチャー（家庭医の特徴、診療技術、地域包括ケアの意味など）を週0.5日行う。また、領域別研修（整形外科・精神科・産婦人科・耳鼻科・眼科・泌尿器科など）の外来研修も週0.5日並行して行う。
日数	0.5～1日/週

6-1. 総合診療専門研修Ⅰ

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

研修施設名 5	加藤病院	診療科名 (総合内科 在宅診療科)
施設情報	<input type="checkbox"/> 診療所 <input checked="" type="checkbox"/> 病院	施設が病院のとき → 病院病床数 (85 床) 診療科病床数 (85 床)
総合診療専門研修 I における研修期間	(6~12) カ月	
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり	
※同一施設で3か月以上ずつの2ブロックに分けることのみ可能。 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい。		
指導医氏名 1	加藤節司	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤 指導医認定番号 (2014-0500 号)
指導医氏名 2		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤 指導医認定番号 ()
指導医氏名 3		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤 指導医認定番号 ()
※常勤指導医を確保できない場合、指導医の特例についての申請書が必要 (審査有)		
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (<input checked="" type="checkbox"/> のように))		
ケアの内容		
<input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど <input checked="" type="checkbox"/> 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加		
施設要件		
<input type="checkbox"/> 患者層：研修医の経験する症例は、学童期以下が5%以上、後期高齢者が10%以上である。 <input checked="" type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他の方法で研修を補完している。(※小児科を有する病院で実施するプログラムは基本的に記載要) 具体的な補完方法 (小児科を有する病院においてワンデイ又はハーフデイバック式研修を行う)		
<input checked="" type="checkbox"/> アクセスの担保：24時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。 具体的な体制と方略 (指定強化型在宅療養支援病院、医療圏域指定初期救急医療機関における往診待機・当直研修)		
<input checked="" type="checkbox"/> 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。 具体的な体制と方略 (主治医・副主治医制による入院・外来・訪問診療継続臨床経験学習)		
<input checked="" type="checkbox"/> 包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。 具体的な体制と方略 (当垂直統合型保健医療施設における臨床経験、プロジェクト、カンファレンス学習)		
<input checked="" type="checkbox"/> 多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。 具体的な体制と方略 (当在宅医療連携推進センターにおけるプロジェクト学習及び地域ケアカンファレンス)		
<input checked="" type="checkbox"/> 家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。 具体的な状況 (同一家族の中で子供からひいおじいちゃんまで多様な年齢構成の人たちが受診し、同一家族に対する感染症の流行に対する対応や予防について学習する)		
<input checked="" type="checkbox"/> 地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。 具体的な内容と方法 (当ヘルスプロモーションカーによる特定健診等保健事業経験学習を町健康福祉課と連携し行う)		
<input checked="" type="checkbox"/> 在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している。 それぞれの概ねの頻度 (訪問診療一日40件相当、急変対応一日3件相当、在宅緩和ケア年間10件相当)		
週当たり研修日数：(4) 日		
総合診療専門研修 I の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修内容とその日数		
内容	小児診療の研修は、大田市立病院もしくは邑智病院の小児科外来研修を週0.5日行うことで補完する。ポータルサイトの作成支援・家庭医療カンファレンス 島根県内の家庭医療後期研修医との週一回のテレビ会議による参加、教育レクチャー (家庭医の特徴、診療技術、地域包括ケアの意味など) を週0.5日行う。また、領域別研修 (整形外科・精神科・産婦人科・耳鼻科・眼科・泌尿器科など) の外来研修も週0.5日並行して行う。	
日数	1.5 日/週	

6-1. 総合診療専門研修 I		
研修施設名 6	浜田市国民健康保険 弥栄診療所	診療科名 (内科・眼科)
施設情報	<input checked="" type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 病院	施設が病院のとき → 病院病床数 () 床 診療科病床数 () 床
総合診療専門研修 I における研修期間	(6~12) カ月	
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり	
※同一施設で3か月以上ずつの2ブロックに分けることのみ可能。 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい。		
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし → 特例申請 (※)	
※指導医の特例申請は、原則的に、へき地・離島と都道府県より法的に指定されている地区の施設においてのみ申請可能。		

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

指導医氏名 1	阿部 顕治	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2012-3)
指導医氏名 2	飯島 慶郎	<input type="checkbox"/> 常勤 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2012-37)
指導医氏名 3	宮本 雄一	<input type="checkbox"/> 常勤 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2012-281)
指導医氏名 4	北條 宣政	<input type="checkbox"/> 常勤 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2003-19)
指導医氏名 5	佐藤 誠	<input type="checkbox"/> 常勤 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2012-125)
指導医氏名 6	佐藤 優子	<input type="checkbox"/> 常勤 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2014-0952)

※常勤指導医を確保できない場合、指導医の特例についての申請書が必要（審査有）

要件（各項目の全てを満たすとき、を塗りつぶす（のように））

ケアの内容

- 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど
- 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事
- 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加

施設要件

- 患者層：当該診療科において（施設全体ではない）専攻医の経験する症例は、学童期以下が5%以上、後期高齢者が10%以上である。
上記の患者層を施設としては満たすが、研修施設に小児科を有する。
 研修診療科で小児を診る工夫・方法
 （ ）
- 上記の要件を満たさないが、他の方法で研修を補完している。
 具体的な補完方法（ ）
- アクセスの担保：24時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。
 具体的な体制と方略（ 時間外は看護師の携帯電話に電話が転送される。電話での対応の後に必要のある場合は診療を行っている。）
- 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。
 具体的な体制と方略（ 定期的な再診外来の時間を設け、予約診療を行う。急性疾患についても担当する。 ）
- 包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。
 具体的な体制と方略（ へき地診療所における全ての健康問題に対応し指導を受ける。 ）
- 多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。
 具体的な体制と方略（ 多職種との連携を要する様なケースを担当する（特に訪問診療患者など）。地域ケア会議に参加する。）
- 家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。
 具体的な状況（ 同一世帯の小児の予防接種から高齢者のケアまで幅広い年齢層の患者の健康問題に対応している。）
- 地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。
 具体的な内容と方法（ 18年間地域全体の脳卒中予防に取り組んできた。保健師と連携しての地域全体のケアを行っている。特定の集落を担当し、地域住民の健康の状態の把握から介入をして、その成果を評価する。）
- 在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している。
 それぞれの概ねの頻度（ 現在の訪問診療の患者数は10名おり、在宅看取りも年間数件行っている。 ）

週当たり研修日数：(4~5) 日/週

※本研修（総合診療専門研修Ⅰ）は週に4日以上行わなければならない。

※休日は含まない。

総合診療専門研修Ⅰの研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修内容とその日数

内容	ポータルサイトの作成支援・家庭医療カフェス 島根県内の家庭医療後期研修医との週一回のテレビ会議による参加、教育レクチャー（家庭医の特徴、診療技術、地域包括ケアの意味など）を週0.5日行う。また、領域別研修（整形外科・精神科・産婦人科・耳鼻科・眼科・泌尿器科など）の外来研修も週0.5日並行して行う。
日数	多くても1日/週まで。

6-1. 総合診療専門研修Ⅰ		
研修施設名 7	浜田市国民健康保険 波佐診療所	診療科名（ 内科・小児科 ）
施設情報	<input checked="" type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 病院	施設が病院のとき → 病院病床数（ ）床 診療科病床数（ ）床
総合診療専門研修Ⅰにおける研修期間	（ 6~12 ）カ月	
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり	
<input type="checkbox"/> 同一施設で3カ月以上ずつの2ブロックに分けることのみ可能。		

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい。	
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし → 特例申請 (※)
※指導医の特例申請は、原則的に、へき地・離島と都道府県より法的に指定されている地区の施設においてのみ申請可能。	
指導医氏名 1	宮本 雄一 <input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤 指導医認定番号 (2012-281)
指導医氏名 2	北條 宣政 <input type="checkbox"/> 常勤 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 指導医認定番号 (2003-19)
指導医氏名 3	佐藤 優子 <input type="checkbox"/> 常勤 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 指導医認定番号 (2014-0952)
指導医氏名 4	佐藤 誠 <input type="checkbox"/> 常勤 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 指導医認定番号 (2012-125)
指導医氏名 5	阿部 顕治 <input type="checkbox"/> 常勤 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 指導医認定番号 (2012-3)
指導医氏名 6	飯島 慶郎 <input type="checkbox"/> 常勤 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 指導医認定番号 (2012-37)
※常勤指導医を確保できない場合、 <u>指導医の特例</u> についての申請書が必要 (審査有)	
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (<input checked="" type="checkbox"/> のように))	
ケアの内容	
<input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど <input checked="" type="checkbox"/> 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加	
施設要件	
<input checked="" type="checkbox"/> 患者層：当該診療科において (施設全体ではない) 専攻医の経験する症例は、学童期以下が 5%以上、後期高齢者が 10%以上である。 <input type="checkbox"/> 上記の患者層を施設としては満たすが、研修施設に小児科を有する。 研修診療科で小児を診る工夫・方法 ()	
<input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他の方法で研修を補完している。 具体的な補完方法 ()	
<input checked="" type="checkbox"/> アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。 具体的な体制と方略 (時間外は医師の携帯電話に転送され、必要時に診療を行っている。)	
<input checked="" type="checkbox"/> 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。 具体的な体制と方略 (定期的な再診外来の時間を設け、診療を行う。)	
<input checked="" type="checkbox"/> 包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。 具体的な体制と方略 (へき地診療所における全ての健康問題に対応してもらい研修を積む。)	
<input checked="" type="checkbox"/> 多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。 具体的な体制と方略 (多職種との連携を要する様なケースを担当してもらい、地域ケア会議に参加する。)	
<input checked="" type="checkbox"/> 家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。 具体的な状況 (同一世帯の小児の予防接種から高齢者のケアまで幅広い年齢層の患者の健康問題に対応している。)	
<input checked="" type="checkbox"/> 地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。 具体的な内容と方法 (住民への健康講話などを行っている。保健師と連携しての地区全体へのケアを行っている。)	
<input checked="" type="checkbox"/> 在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している。 それぞれの概ねの頻度 (現在 8 名の訪問診療患者がおり、年間数件の在宅看取りも行っている。)	
週当たり研修日数：(4~5) 日/週	
※本研修 (総合診療専門研修 I) は週に 4 日以上行わなければならない。 ※休日は含まない。	
総合診療専門研修 I の研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる研修内容とその日数	
内容	ポータルサイトの作成支援・家庭医療カンファレンス 島根県内の家庭医療後期研修医との週一回のテレビ会議による参加、教育レクチャー (家庭医の特徴、診療技術、地域包括ケアの意味など) を週 0.5 日行う。また、領域別研修 (整形外科・精神科・産婦人科・耳鼻科・眼科・泌尿器科など) の外来研修も週 0.5 日並行して行う。
日数	多くても 1 日/週まで。

6-1. 総合診療専門研修 I		
研修施設名 8	浜田市国民健康保険あさひ診療所	診療科名 (内科、小児科、整形外科)
施設情報	<input checked="" type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 病院	施設が病院のとき → 病院病床数 () 床 診療科病床数 () 床
総合診療専門研修 I における研修期間	(12) カ月	

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり						
<input type="checkbox"/> 同一施設で3カ月以上ずつの2ブロックに分けることのみ可能。 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい。							
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし → 特例申請 (※)						
※指導医の特例申請は、原則的に、へき地・離島と都道府県より法的に指定されている地区の施設においてのみ申請可能。							
指導医氏名 1	佐藤 誠	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2012-125)			
指導医氏名 2	北條 宣政	<input type="checkbox"/> 常勤 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2003-19)			
指導医氏名 3	佐藤 優子	<input type="checkbox"/> 常勤 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2014-0952)			
指導医氏名 4	宮本 雄一	<input type="checkbox"/> 常勤 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2012-281)			
指導医氏名 5	阿部 顕治	<input type="checkbox"/> 常勤 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2012-3)			
指導医氏名 6	飯島 慶郎	<input type="checkbox"/> 常勤 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2012-37)			
※常勤指導医を確保できない場合、 <u>指導医の特例</u> についての申請書が必要 (審査有)							
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (<input checked="" type="checkbox"/> のように))							
ケアの内容							
<input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど <input checked="" type="checkbox"/> 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加							
施設要件							
<input checked="" type="checkbox"/> 患者層：当該診療科において (施設全体ではない) 専攻医の経験する症例は、学童期以下が 5%以上、後期高齢者が 10%以上である。 <input type="checkbox"/> 上記の患者層を施設としては満たすが、研修施設に小児科を有する。 研修診療科で小児を診る工夫・方法 ()							
<input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他の方法で研修を補完している。 具体的な補完方法 ()							
<input checked="" type="checkbox"/> アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。 具体的な体制と方略 (時間外は医師の携帯電話に転送され、必要時に診療を行っている。)							
<input checked="" type="checkbox"/> 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。 具体的な体制と方略 (定期的な再診外来の時間を設け、診療を行う。)							
<input checked="" type="checkbox"/> 包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。 具体的な体制と方略 (へき地診療所における全ての健康問題に対応することで研修を積む。)							
<input checked="" type="checkbox"/> 多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。 具体的な体制と方略 (多職種との連携を要する様なケースを担当してもらう。地域ケア会議に参加する。)							
<input checked="" type="checkbox"/> 家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。 具体的な状況 (同一世帯の小児の予防接種から高齢者のケアまで幅広い年齢層の患者の健康問題に対応している。)							
<input checked="" type="checkbox"/> 地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。 具体的な内容と方法 (地域ケア会議に参加。住民への健康講話も行政や自治会と連携して行っている。)							
<input checked="" type="checkbox"/> 在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している。 それぞれの概ねの頻度 (現在 8 名の訪問診療患者がいる。往診は月数件はあり、訪問看護師やケアマネージャーと連絡を取りながら対応をしている。在宅看取りは年間 0~2 名ほど行っている。)							
週当たり研修日数：(4~5) 日/週							
※本研修 (総合診療専門研修 I) は週に 4 日以上行わなければならない。 ※休日は含まない。							
総合診療専門研修 I の研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる研修内容とその日数							
内容	ポータルサイトの作成支援・家庭医療カフェ/島根県内の家庭医療後期研修医との週一回のテレビ会議による参加、教育レクチャー (家庭医の特徴、診療技術、地域包括ケアの意味など) を週 0.5 日行う。また、領域別研修 (整形外科・精神科・産婦人科・耳鼻科・眼科・泌尿器科など) の外来研修も週 0.5 日並行して行う。						
日数	多くても 1 日/週まで。						

6-2. 総合診療専門研修 II		
研修施設名 1	出雲市民病院	診療科名 (一般内科 (家庭医療科))

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

施設情報	病院病床数 (180) 床	診療科病床数 (60) 床
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間	(6~12) カ月	
研修期間の分割	■なし □あり (分割について具体的に記入してください)	
指導医氏名 1	高橋 賢史	■常勤 □非常勤
指導医氏名 2	小松 泰介	■常勤 □非常勤
指導医氏名 3		□常勤 □非常勤
※常勤指導医を確保できない場合、 <u>指導医の特例</u> についての申請書が必要 (審査有)		
要件 (各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))		
ケアの内容		
■病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題(心理・社会・倫理的問題を含む)を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。		
■外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する。		
施設要件		
■一般病床を有する		
■救急医療を提供している		
病棟診療 ：以下の全てを行っていること		
■高齢者 (特に虚弱) ケア 具体的な体制と方略 (入院患者、外来患者とも大半が高齢者である。主治医意見書作成件数は月 5 件程度。自宅生活継続に不安定性を有する患者もいるため、院内スタッフ、地域のスタッフ、地域住民と適宜相談を行いながらケアを提供している。)		
■複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略 (全ての内科疾患の入院患者を当科が担当し、整形外科入院患者の内科対診を行っている。)		
■必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略 (整形外科常勤医にコンサルテーション可能。大学病院医師による循環器内科、呼吸器内科、血液内科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、眼科、外科、の外来支援があり、その際に適宜コンサルテーションが可能。また、近隣に大学病院、県立中央病院、精神科病院、クリニックがあり連携可能。)		
■心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略 (毎週、看護師、MSW、セラピストを交えたカンファレンスを行い、検討している。院内倫理委員会もあり倫理問題事例も適宜相談可能である。)		
■癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略 (各種悪性疾患患者の在宅療養が困難な場合の入院による緩和治療・看取りを行っている。また、末期肝臓不全、透析困難症患者の緩和ケアを行っている。)		
■退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略 (MSW や看護師任せではなく、当科主治医が退院に際して必要な介護サービスの調整を検討している。圏域の在宅療養支援診療所、訪問看護、訪問リハビリ、通所リハビリを主治医がほぼ把握し、MSW やケアマネージャーと連携して、患者が適当な在宅ケアが受けることが出来るよう調整している。退院前共同指導も積極的にを行っている。)		
■在宅患者の入院時対応 具体的な体制 (複数の在宅療養支援診療所の後方支援病院となっており、在宅患者の肺炎、尿路感染症、急性心不全などの入院加療や、ALS 患者のレスパイト入院などを行っている。)		
外来診療 ：以下の診療全てを行っていること		
■救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略 (一般内科外来の中で家庭医療外来を行っている。家庭医 1 人が週 2 回程度外来を担当し、救急外来や当直もを行っている。)		
■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略 (一般内科外来の中で家庭医・家庭医療後期研修医の担当は家庭医療科外来として行っている。院内院外紹介、初診、内科疾患以外の主訴、精神科関連主訴、小児 (病院として標榜はしていないが受診された場合) の対応も行っている。特に初診・再診の区別はしていない。)		
■よくある症候と疾患 具体的な体制と方略 (各種悪性疾患患者の在宅療養が困難な場合の入院による緩和治療・看取りを行っている。また、末期腎不全、透析困難症患者の緩和ケアを行っている。)		
■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略 (月 2 回程度の症例検討会にて外来ケースについても検討を行う。ケースのプレゼンから鑑別診断を集団的に挙げ、臨床推論をトレーニングする手法を用いる。Dynamed や UpToDate などの電子媒体を利用し、最新知見も交えながら診療についての家庭医集団の質統一を図っている。)		

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

<p>■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略（複数の健康問題を抱える患者には、外来では優先順位を意識して問題解決を図る。可能な限り家庭医で複数の問題の解決を図るが、必要に応じて臓器専門医の外来医師、ならびに近隣医療機関への適切な紹介を行う。）</p>	
<p>■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略（当院で取り扱う問題の大半は Common disease ではあるが、時に稀な疾患を抱えるケースや診断困難なケースに遭遇する。家庭医集団での検討、常勤の放射線科読影医、大学病院より外来支援に来る医師への相談の機会を利用し対応している。）</p>	
週当たり研修日数：（ 4～4.5 ）日	
総合診療専門研修Ⅱの研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数	
内容	ポータルサイトの作成支援・家庭医療カフェ 島根県内の家庭医療後期研修医との週一回のテレビ会議による参加、教育レクチャー（家庭医の特徴、診療技術、地域包括ケアの意味など）を週0.5日行う。また、領域別研修（整形外科・精神科・産婦人科・耳鼻科・眼科・泌尿器科など）の外来研修も週0.5日並行して行う。
日数	0.5～1日/週

6-2. 総合診療専門研修Ⅱ				
研修施設名 2	大田市立病院	診療科名（内科、外科、皮膚科、泌尿器科）		
施設情報	病院病床数（285）床	診療科病床数（厳密な区分なし）床		
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間		（6～12）カ月		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり（分割について具体的に記入してください）			
指導医氏名 1	山形 真吾	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2013-294号)
指導医氏名 2		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	()
指導医氏名 3		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	()
※常勤指導医を確保できない場合、 <u>指導医の特例</u> についての申請書が必要（審査有）				
要件（各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす（ <input checked="" type="checkbox"/> のように））				
ケアの内容				
<p>■病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題（心理・社会・倫理的問題を含む）を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。</p> <p>■外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する。</p>				
施設要件				
<p>■一般病床を有する</p> <p>■救急医療を提供している</p>				
病棟診療 ：以下の全てを行っていること				
<p>■高齢者（特に虚弱）ケア 具体的な体制と方略（高齢者の多い島根県の中でもさらに高齢化の進んだ圏域であり、在宅療養中の高齢者や施設利用中の高齢者の病状の変化に対応する機会が多い。在宅訪問看護なども協力しながら虚弱高齢者のケアも行っている。）</p>				
<p>■複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略（総合診療科という呼称を標榜してはいないが、内科、外科は総合的な一般診療を取り扱う科としての位置づけで機能している。臓器別の枠組みを設けることなく、共有する部分を維持しながら診療にあたっている。また、総合医育成センター内のみでも、一般外科、皮膚科、泌尿器科の専門診療の可能な体制にある。）</p>				
<p>■必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略（院内の常勤専門医で非対応の専門領域や特殊領域については、大学からの派遣医による外来診療で補っている。専門外来を窓口として、島根大学付属病院等への入院も円滑に行える環境にある。CTやMRIの他血管撮影やRI検査等も実施可能であり、癌の病期評価や術前の評価などは大学病院よりも迅速に行える体制にあり、相互に機能を補完しながら診療にあたっている。）</p>				
<p>■心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略（病棟カンファレンス等で認識できた複雑事例には、医療相談員や看護師長、担当医の他、包括支援センターなども連携をとりながら協働して、事例ごとに解決法を探る努力をしている。家族や支援者とのカンファレンスなども必要に応じて開催している。また、地域医療連携室が中心となった患者相談窓口を通じた対応も実施している。）</p>				

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

<p>■癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略（医師会と協力して地域を挙げて総合医を育てていこうとする取り組みが組織されている。医師会会員からの開放病床の利用もさらに推進する。難病患者のレスパイト入院などはすでに行っているところだが、癌のみならず非癌患者の緩和ケアについても組織的な推進を図る。）</p>	
<p>■退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略（リハビリテーションⅠの施設基準で総合的なリハビリの運営も行ってあり、医療相談員や看護師、医師等を含めた多職種の協力のもとに、退院の支援を図っている。包括支援センターなどとの連携も密にして生活支援の調整を行っている。）</p>	
<p>■在宅患者の入院時対応 具体的な体制（併設する訪問看護センターの利用や地域包括支援センターとの連携のもと、遅滞なく円滑な対応が図れるよう地域医療連携室が中心になって調整を図っている。）</p>	
<p>外来診療：以下の診療全てを行っていること</p>	
<p>■救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略（初診外来は週5日午前中に、救急外来は一次および二次救急を主体に夜昼問わず1年を通じて切れ目なく、対応している。）</p>	
<p>■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略（内科一般の初診患者については、診療科を指定した紹介患者以外、最初からサブスペシャリティを特定してはいない。関連臓器を恣意的に特定せず、広い領域の診療にあたらなければならない体制である。）</p>	
<p>■よくある症候と疾患 具体的な体制と方略（common diseases については一通り診療できる環境にある。）</p>	
<p>■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略（外来終了後同日中に、診療した外来患者の検討を行っており、臨床推論やEBMの観点からも見直しを実施している。）</p>	
<p>■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略（院内の専門各科や地域医療連携室等とも連携し包括的な対応を図っている。）</p>	
<p>■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略（週一回の割合で入院総合カンファレンスを開催しており、その際、診断や治療に苦慮する患者について専門医を含む他医に相談することができる。入院に限らず、困難事例については、チームで考えていく土壌がある。）</p>	
<p>週当たり研修日数：(4~4.5) 日</p>	
<p>総合診療専門研修Ⅱの研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数</p>	
内容	ポータルサイトの作成支援・家庭医療カンファレンス 島根県内の家庭医療後期研修医との週一回のテレビ会議による参加、教育レクチャー（家庭医の特徴、診療技術、地域包括ケアの意味など）を週0.5日行う。また、領域別研修（整形外科・精神科・産婦人科・耳鼻科・眼科・泌尿器科など）の外来研修も週0.5日並行して行う。
日数	0.5~1日/週

6-2. 総合診療専門研修Ⅱ			
研修施設名	3 隠岐島前病院	診療科名	(内科・外科・小児科)
施設情報	病院病床数 (44) 床	診療科病床数	(44) 床
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間		(6~12) カ月	
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり (分割について具体的に記入してください：)		
指導医氏名1	白石 吉彦	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号 (2013-567号)
指導医氏名2	白石 裕子	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号 (2013-566号)
指導医氏名3		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号 ()
※常勤指導医を確保できない場合、 <u>指導医の特例</u> についての申請書が必要 (審査有)			
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (<input checked="" type="checkbox"/> のように))			
ケアの内容			
<p>■病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題(心理・社会・倫理的問題を含む)を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。</p>			

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

<p>■外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する。</p>	
<p>施設要件</p> <p>■一般病床を有する</p> <p>■救急医療を提供している</p>	
<p>病棟診療：以下の全てを行っていること</p> <p>■高齢者（特に虚弱）ケア 具体的な体制と方略（入院時にせん妄リスクチェック、転倒リスクチェックをルーチンに行い、セルフケア不能の場合には口腔ケアが行われる。栄養状態や嚥下機能に問題がある場合は多職種で形成されたNSTチームが評価、リハ、摂食介助に関わる。）</p> <p>■複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略（常勤医は総合医で形成されているため、全ての入院患者の健康問題に関わる。週に1回テレビ会議を通じて島根県立中央病院の総合診療科と合同カンファレンスを開催しており、困難事例についてはコンサルトを行っている。）</p> <p>■必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略（耳鼻科・眼科・整形外科・精神科・産婦人科の非常勤診療があり、またテレビ会議を通じて皮膚科の診療支援を受けている。）</p> <p>■心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略（非常勤精神科医との協働、密接な行政、福祉機関との連携の下で多面的に支えている。）</p> <p>■癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略（基本的には本人、家族の希望に添えるよう、あらゆる痛みをとる努力をしながら、療養の場を自宅、あるいは病院を選んでもらえるように体制作りをしている。訪問看護、訪問薬剤指導、訪問リハビリなど多職種で在宅医療に取り組んでおり、多方面から支えられるように取り組んでいる。）</p> <p>■退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略（月に2回多職種で行われる病院内でのサービス調整会議を軸としながら、福祉分野との連携を取っている。併設する療養型で十分な在宅へのリハビリを行いながら、必要に応じて病棟看護師やリハビリスタッフによる退院前訪問などで細かな問題点を抽出しながら、丁寧な退院支援を心がけている。）</p> <p>■在宅患者の入院時対応 具体的な体制（自院で24時間体制の救急受け入れ態勢取っている。）</p>	
<p>外来診療：以下の診療全てを行っていること</p> <p>■救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略（24時間365日の救急受け入れ態勢とっている。毎日予約外来と初診外来を行っている。）</p> <p>■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略（内科小児科というよろず外来と外科外来と言う名前の処置系外来を行っている。）</p> <p>■よくある症候と疾患 具体的な体制と方略（電子カルテを利用して複数医師による外来診療のフィードバックを行っている。）</p> <p>■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略（すべての診察室にインターネット接続用のパソコンを常設している。総合医の複数制をとっており、完全主治医制ではないため、複数の医師で地域全体の患者を診療しているため、チェック機構がはたらき、独善的な治療にならないような体制になっている。）</p> <p>■複数の健康問題への包括的ケア 具体的な体制と方略（定期的に複数の医師で外来診療の振り返りを行っている。）</p> <p>■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略（院内でのカンファレンスで診断困難な場合は、他院とのテレビ会議でのカンファレンスや画像連携を利用しコンサルト可能である。）</p>	
<p>週当たり研修日数：（ 4～4.5 ）日</p>	
<p>総合診療専門研修Ⅱの研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数</p>	
内容	<p>ポートフォリオの作成支援・家庭医療カンファレンス 島根県内の家庭医療後期研修医との週一回のテレビ会議による参加、教育レクチャー（家庭医の特徴、診療技術、地域包括ケアの意味など）を週0.5日行う。また、領域別研修（整形外科・精神科・産婦人科・耳鼻科・眼科・泌尿器科など）の外来研修も週0.5日並行して行う。</p>
日数	0.5～1日/週

6-2. 総合診療専門研修Ⅱ		
研修施設名4	津和野共存病院	診療科名（内科）
施設情報	病院病床数（ 99）床	診療科病床数（ 50）床

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間		(6~12) カ月					
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり (分割について具体的に記入してください:)						
指導医氏名1	須山信夫	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2013-306号)			
指導医氏名2	飯島献一	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2014-0535号)			
指導医氏名3		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	()			
※常勤指導医を確保できない場合、 <u>指導医の特例</u> についての申請書が必要 (審査有)							
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (<input checked="" type="checkbox"/> のように))							
ケアの内容							
<p><input checked="" type="checkbox"/>病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題(心理・社会・倫理的問題を含む)を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する。</p>							
施設要件							
<input checked="" type="checkbox"/> 一般病床を有する							
<input checked="" type="checkbox"/> 救急医療を提供している 救急告示は行っていないが救急対応は行っている							
病棟診療 ：以下の全てを行っていること							
<p><input checked="" type="checkbox"/>高齢者（特に虚弱）ケア 具体的な体制と方略（高齢者の多い島根県の中でもさらに高齢化の進んだ圏域であり、在宅療養中の高齢者や施設利用中の高齢者の病状の変化に対応する機会が多い。虚弱な患者様には訪問診療を行い在宅訪問看護などとも協力しながら虚弱高齢者のケアも行っている。</p>							
<p><input checked="" type="checkbox"/>複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略（内科は総合的な一般診療を取り扱う科としての位置づけで機能している。臓器別の枠組みを設けることなく、共有する部分を維持しながら診療にあたっている。）</p>							
<p><input checked="" type="checkbox"/>必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略（非常勤医による専門外来への相談、またこれを窓口としてその派遣先である島根大学、益田赤十字病院、益田医師会病院への入院も円滑に行える環境にある）</p>							
<p><input checked="" type="checkbox"/>心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略（成人・高齢者の入院患者は複数の健康問題を（心理・社会・倫理的問題を含む）抱えており地域包括ケアの実践を行う。複雑事例では病院内の医師、看護師、理学療法士、管理栄養士、薬剤師、相談員での週一回のカフェリスのみではなく、家族を含めた地域でのケアマネジャー、保健師、訪問看護師、連携室員と協働して問題解決をはかる。）</p>							
<p><input checked="" type="checkbox"/>癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略（圏域内の高度急性期病院からの紹介患者の癌患者のみならず難病患者のレスパイト入院など非癌患者の緩和ケアについても組織的な連携を図っている。</p>							
<p><input checked="" type="checkbox"/>退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略（病院内の医師、看護師、理学療法士、管理栄養士、薬剤師、相談員のみではなく、家族を含めた地域でのケアマネジャー、保健師、訪問看護師、連携室員と協働して退院カフェリスを行い退院にあたっての問題解決をはかり退院支援を図る。）</p>							
<input checked="" type="checkbox"/> 在宅患者の入院時対応							

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

具体的な体制（併設する訪問看護センターの利用や地域包括支援センターとの連携のもと、遅滞なく円滑な対応が図れるよう地域医療連携室が中心になって調整を図っている。）

外来診療：以下の診療全てを行っていること

■救急外来及び初診外来

具体的な体制と方略（初診外来は週5日午前中に、救急外来は一次および軽度二次救急を主体に対応している。）

■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者

具体的な体制と方略（内科一般の初診患者については、診療科を指定した紹介患者以外、最初からサブスペシャリティを特定してはいない。 関連臓器を恣意的に特定はせず、広い領域の診療にあたらなければならない体制である。）

■よくある症候と疾患

具体的な体制と方略（common diseasesについては一通り診療できる環境にある。）

■臨床推論・EBM

具体的な体制と方略（外来終了後同日中に、診療した外来患者の検討を行っており、臨床推論やEBMの観点からも見直しを実施する。また1日の終りには指導医と一緒に振り返りを行い今日出来たこと、できなかったこと、次はどうしたいかなど指導医と一緒に学び成長する環境を提供する。）

■複数の健康問題への包括的なケア

具体的な体制と方略（院内の専門各科や地域医療連携室等とも連携し包括的な対応を図っている。）

■診断困難患者への対応

具体的な体制と方略（週一回の割合で入院総合カンファレンスを開催しており、その際、診断や治療に苦慮する患者について専門医を含む他医に相談することができる。 入院に限らず、困難事例については、チームで考えていく土壌がある。）

週当たり研修日数：(4~4.5) 日

総合診療専門研修Ⅱの研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数

内容	ポートフォリオの作成支援・家庭医療カンファレンス 島根県内の家庭医療後期研修医との週一回のテレビ会議による参加、教育レクチャー（家庭医の特徴、診療技術、地域包括ケアの意味など）を週0.5日行う。また、領域別研修（整形外科・精神科・産婦人科・耳鼻科・眼科・泌尿器科など）の外来研修も週0.5日並行して行う。
日数	0.5~1日/週

6-2. 総合診療専門研修Ⅱ

研修施設名 5	加藤病院	診療科名（総合内科 在宅診療科	）
施設情報	病院病床数（ 85 ）床	診療科病床数（ 85 ）床	
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間	（ 6~12 ）カ月		
研修期間の分割	■なし □あり（分割について具体的に記入してください）		
指導医氏名 1	加藤節司	■常勤 □非常勤	指導医認定番号（2014-0500号）
指導医氏名 2		□常勤 □非常勤	指導医認定番号（ ）
指導医氏名 3		□常勤 □非常勤	指導医認定番号（ ）
※常勤指導医を確保できない場合、指導医の特例についての申請書が必要（審査有）			
要件（各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

ケアの内容	
<p>■病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題(心理・社会・倫理的問題を含む)を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。</p> <p>■外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する。</p>	
施設要件	
<p>■一般病床を有する</p> <p>■救急医療を提供している</p>	
病棟診療 ：以下の全てを行っていること	
<p>■高齢者（特に虚弱）ケア 具体的な体制と方略（主治医・副主治医制 在宅復帰強化型療養病棟における臨床経験学習 ）</p> <p>■複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略（院内各専門医と症例カンファレンス、総合医療支援委員会専門職連携カンファレンス）</p> <p>■必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略（院内専門医及び島根大学臨床指導医との共同診療・診療録監査 ）</p> <p>■心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略（臨床倫理カンファレンス、包括支援センター地域ケア会議、町福祉会議症例検討会での討議）</p> <p>■癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略（院内総合医療支援委員会との連携による専門職連携カンファレンスの開催と討議 ）</p> <p>■退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略（院内退院支援カンファレンス、法人在宅療養支援カンファレンス、病床管理部会討議）</p> <p>■在宅患者の入院時対応 具体的な体制（ 指定強化型在宅療養支援病院、地域包括ケア病棟、在宅医療連携推進センター機能を活用する体制 ）</p>	
外来診療 ：以下の診療全てを行っていること	
<p>■救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略（総合外来での臨床経験学習と一対一指導(hot seating 含む)法、診療録監査、SGD)</p> <p>■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略（総合外来での臨床経験学習と一対一指導(hot seating 含む)法、診療録監査、SGD)</p> <p>■よくある症候と疾患 具体的な体制と方略（域地域保健医療会議、町国保運営委員会会議、島根県感染症情報へのアクセス確保と経験学習）</p> <p>■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略（DynaMed 等各種情報へのアクセス確保と教育カンファレンス、症例検討会、プロジェクト学習）</p> <p>■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略（症例検討会、教育カンファレンス、SGD 等の活用と経験学習）</p> <p>■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略（専門医療機関等における症例検討会、教育カンファレンス、SGD 等の活用と経験学習）</p>	
週当たり研修日数：(4~4.5) 日	
総合診療専門研修Ⅱの研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数	
内容	ポータルサイトの作成支援・家庭医療カンファレンス 島根県内の家庭医療後期研修医との週一回のテレビ会議による参加、教育レクチャー（家庭医の特徴、診療技術、地域包括ケアの意味など）を週 0.5 日行う。また、領域別研修（整形外科・精神科・産婦人科・耳鼻科・眼科・泌尿器科など）の外来研修も週 0.5 日並行して行う。
日数	0.5~1 日/週

6-2. 総合診療専門研修Ⅱ			
研修施設名 6	島根県立中央病院	診療科名（ 総合診療科 ）	
施設情報	病院病床数（ 679 ）床	診療科病床数（ フリー病床だが 20 程度 ）床	
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間		（ 6-12 ）カ月	
研修期間の分割	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり（分割について具体的に記入してください： ）		
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし → 特例申請（※）		
※指導医の特例申請は、原則的に、へき地・離島と都道府県より法的に指定されている地区の施設においてのみ申請可能。			
指導医氏名 1	増野純二	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号（ 2013-0608 ）
指導医氏名 2	今田敏宏	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号（ 2014-0353 ）

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

指導医氏名 3	中村 嗣	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2012-031)
指導医氏名 4	木村清志	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(98-137)

要件 (各項目の全てを満たすとき、を塗りつぶす (のように))

ケアの内容

■病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題(心理・社会・倫理的問題を含む)を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。

■外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する。

施設要件

■一般病床を有する

■救急医療を提供している

病棟診療：以下の全てを行っていること

■高齢者 (特に虚弱) ケア

具体的な体制と方略 (施設からの患者、誤嚥、摂食障害などの患者対応)

■複数の健康問題を抱える患者への対応

具体的な体制と方略 (高齢者、診断不確定者などに対する対応)

■必要に応じた専門医との連携

具体的な体制と方略 (多くの専門科のある病院であり、常に対応可能)

■心理・社会・倫理的複雑事例への対応

具体的な体制と方略 (MSW、医療安全推進室などと協力)

■癌・非癌患者の緩和ケア

具体的な体制と方略 (緩和医療チームと協力)

■退院支援と地域連携機能の提供

具体的な体制と方略 (地域医療連携室と協力)

■在宅患者の入院時対応

具体的な体制 (救急外来、一般外来との協力)

外来診療：以下の診療全てを行っていること

■救急外来及び初診外来

具体的な体制と方略 (ER 型救急外来、総合診療科外来で研修)

■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者

具体的な体制と方略 (総合診療科外来で研修)

■よくある症候と疾患

具体的な体制と方略 (総合診療科外来で研修)

■臨床推論・EBM

具体的な体制と方略 (総合診療科外来で研修、指導医は臨床疫学のトレーニングを受けている)

■複数の健康問題への包括的なケア

具体的な体制と方略 (総合診療科外来で研修)

■診断困難患者への対応

具体的な体制と方略 (総合診療科外来、病棟で研修)

週当たり研修日数：(4~5) 日/週

※本研修 (総合診療専門研修Ⅱ) は週に 4 日以上行わなければならない。

※休日は含まない。

総合診療専門研修Ⅱ (本研修) の研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数 (週 1 日まで) ※並行して行う研修は内科、小児科は除く。

内容 ポートフォリオの作成支援・家庭医療カファルス 島根県内の家庭医療後期研修医との週一回のテレビ会議による参加、教育レクチャー (家庭医の特徴、診療技術、地域包括ケアの意味など) を週 0.5 日行う。また、領域別研修 (整形外科・精神科・産婦人科・耳鼻科・眼科・泌尿器科など) の外来研修も研修状況に応じて、週 0.5 日行う。

日数 0.5~1 日/週

6-2. 総合診療専門研修Ⅱ

研修施設名 7	隠岐病院	診療科名 (内科)
施設情報	病院病床数 (112) 床	診療科病床数 (50) 床
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間	(6~12) カ月	
研修期間の分割	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり (分割について具体的に記入してください)	

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

指導医氏名 1	加藤一朗	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2012-32 号)
※常勤指導医を確保できない場合、 <u>指導医の特例についての申請書</u> が必要 (審査有)				
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (<input checked="" type="checkbox"/> のように))				
ケアの内容				
■病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題(心理・社会・倫理的問題を含む)を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。				
■外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する。				
施設要件				
■一般病床を有する				
■救急医療を提供している				
病棟診療 ：以下の全てを行っていること				
■高齢者(特に虚弱)ケア 具体的な体制と方略 (家族の介護力、介護サービス利用を考慮しつつ包括的に診療を提供している)				
■複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略 (社会的背景を考慮)				
■必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略 (精神科・外科・整形外科等当院の専門医との連携)				
■心理・社会・倫理的問題の複雑事例への対応 具体的な体制と方略 (当院地域連携室(保健師・精神保健福祉士等)との連携)				
■癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略 (緩和ケアチームでの個別検討あり)				
■退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略 (当院地域連携室を通して院外の関係機関と連携あり)				
■在宅患者の入院時対応 具体的な体制 (急変時には24時間365日対応可)				
外来診療 ：以下の診療全てを行っていること				
■救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略 (軽症～重症まで全ての患者をまず診療する島唯一の救急外来)				
■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略 (内科疾患は臓器別ではなく全て内科外来で診療)				
■よくある症候と疾患 具体的な体制と方略 (肺炎・心不全・胆道感染・尿路感染・脳血管疾患等)				
■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略 (ガイドライン・最新の文献に基づいた診療)				
■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略 (看護師・保健師・精神保健福祉士等との連携)				
■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略 (カンファレンスの実施)				
週当たり研修日数：(4～4.5)日				
総合診療専門研修Ⅱの研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数				
内容	ポータルサイトの作成支援・家庭医療カンファレンス 島根県内の家庭医療後期研修医との週一回のテレビ会議による参加、教育レクチャー(家庭医の特徴、診療技術、地域包括ケアの意味など)を週0.5日行う。また、領域別研修(整形外科・精神科・産婦人科・耳鼻科・眼科・泌尿器科など)の外来研修も週0.5日並行して行う。			
日数	0.5～1日/週			

6-3. 領域別研修：内科			
研修施設名 1	大田市立病院	病院病床数 (285) 床	診療科名 (内科)
領域別研修(内科)における研修期間		(6) カ月	
指導医氏名 1	山形真吾	臨床経験年数 (27) 年	
有する認定医・専門医資格	日本内科学会総合内科専門医、日本神経学会専門医、日本プライマリ・ケア連合学会認		

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

定医・指導医	
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））	
ケアの内容 ■病棟診療：病棟での主治医として主に内科疾患の急性期患者の診療を幅広く経験する。	
施設要件 ■医師法第 16 条の 2 および関係省令で定める基幹型または協力型臨床研修病院である。 ■内科病床数が 50 床以上ある。（ 64 ）床 ■内科常勤医が 5 名以上いる。（ 8 ）名 ■後期研修プログラムの認定に関する細則第 9 条(5)に定める指導医が病院全体として 3 名以上いる。（ 6 ）名	
週当たり研修日数：（ 4.5 ）日	
領域別研修（内科）の研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数	
内容	ポートフォリオの作成支援・家庭医療カフェ 島根県内の家庭医療後期研修医との週一回のテレビ会議による参加、教育レクチャー（家庭医の特徴、診療技術、地域包括ケアの意味など）を週 0.5 日行う。また、領域別研修（整形外科・精神科・産婦人科・耳鼻科・眼科・泌尿器科など）の外来研修も週 0.5 日並行して行う。
日数	0.5～1 日/週

6-3. 領域別研修：内科			
研修施設名 2	島根県立中央病院	病院病床数（ 679 ）床	診療科名（ 総合診療科 ）
領域別研修（内科）における研修期間		（ 6 ）カ月	
指導医氏名	増野純二	臨床経験年数（ 21 ）年	
有する認定医・専門医資格	内科学会総合内科専門医、プライマリ・ケア連合学会家庭医療専門医、リウマチ学会専門医、消化器病学会専門医		
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
ケアの内容 ■病棟診療：病棟での主治医として主に内科疾患の急性期患者の診療を幅広く経験する。			
施設要件 ■医師法第 16 条の 2 および関係省令で定める基幹型または協力型臨床研修病院である。 ■内科病床数が 50 床以上ある。（ 210 ）床 ■内科常勤医が 5 名以上いる。（ 38 ）名 ■後期研修プログラムの認定に関する細則第 9 条(5)に定める指導医が病院全体として 3 名以上いる。（ 24 ）名			
週当たり研修日数：（ 4～5 ）日/週 ※本研修（内科）は週に 4 日以上行わなければならない。 ※休日は含まない。			
内科（本研修）の研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数（週 1 日まで） ※並行して行う研修は総合診療専門研修Ⅰ・Ⅱ、小児科は除く。			
内容	ポートフォリオの作成支援・家庭医療カフェ 島根県内の家庭医療後期研修医との週一回のテレビ会議による参加、教育レクチャー（家庭医の特徴、診療技術、地域包括ケアの意味など）を週 0.5 日行う。また、領域別研修（整形外科・精神科・産婦人科・耳鼻科・眼科・泌尿器科など）の外来研修も研修状況に応じて、週 0.5 日行う。		
日数	0.5～1 日/週		

6-4. 領域別研修：小児科			
研修施設名 1	大田市立病院	病院病床数（ 285 ）床	診療科名（ 小児科 ）
領域別研修（小児科）における研修期間		（ 3 ）カ月	
指導医氏名 1	楳野恭久	有する専門医資格（ 小児科専門医 ）	
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
ケアの内容 ■外来診療：指導医の下で初診を数多く経験し、小児特有の疾患を含む日常的に遭遇する症候や疾患の対応を経験する。 ■救急診療：指導医の監督下で積極的に救急外来を担当し、軽症、1 次救急を中心に経験する。 ■病棟診療：日常的に遭遇する疾患の入院診療を担当し、外来・救急から入院に至る流れと基本的な入院ケアを学ぶ。			

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

施設要件	
■小児領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる。 ■小児科常勤医がいる。（ 1 ）名	
週当たり研修日数：（ 4～4.5 ）日	
領域別研修（小児科）の研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数	
内容	ポータルサイトの作成支援・家庭医療カフェ 島根県内の家庭医療後期研修医との週一回のテレビ会議による参加、教育レクチャー（家庭医の特徴、診療技術、地域包括ケアの意味など）を週 0.5 日行う。また、領域別研修（整形外科・精神科・産婦人科・耳鼻科・眼科・泌尿器科など）の外来研修も週 0.5 日並行して行う。
日数	0.5～1 日/週

6-4. 領域別研修：小児科			
研修施設名 2	島根県立中央病院	病院病床数（ 679 ）床	診療科名（ 小児科 ）
領域別研修（小児科）における研修期間		（ 3 ）カ月	
指導医氏名	加藤文英	有する専門医資格（日本小児学会専門医、周産期（新生児）暫定指導医、小児循環器暫定指導医）	
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
ケアの内容			
■外来診療：指導医の下で初診を数多く経験し、小児特有の疾患を含む日常的に遭遇する症候や疾患の対応を経験する。 ■救急診療：指導医の監督下で積極的に救急外来を担当し、軽症、1次救急を中心に経験する。 ■病棟診療：日常的に遭遇する疾患の入院診療を担当し、外来・救急から入院に至る流れと基本的な入院ケアを学ぶ。			
施設要件			
■小児領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる。 ■小児科常勤医がいる。（ 8 ）名			
週当たり研修日数：（ 4～5 ）日/週			
※小児科（本研修）は週に 4 日以上行わなければならない。 ※休日は含まない。			
小児科（本研修）の研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数（週 1 日まで） ※並行して行う研修は総合診療専門研修Ⅰ・Ⅱ、内科は除く。			
内容	ポータルサイトの作成支援・家庭医療カフェ 島根県内の家庭医療後期研修医との週一回のテレビ会議による参加、教育レクチャー（家庭医の特徴、診療技術、地域包括ケアの意味など）を週 0.5 日行う。また、領域別研修（整形外科・精神科・産婦人科・耳鼻科・眼科・泌尿器科など）の外来研修も研修状況に応じて、週 0.5 日並行して行う。		
日数	0.5～1 日/週		

6-5. 領域別研修：救急科			
研修施設名 1	島根大学 救命救急センター	病院病床数（600）床	年間救急搬送件数（2188）件
指導医氏名 1	仁科 雅良	有する専門医資格（救急科専門医・指導医）	専従する部署（救命救急センター）
ブロック研修、兼任研修のいずれかを選択し、□を塗りつぶす（■のように）			
■ブロック研修 →領域別研修（救急科）における研修期間（ 3 ）カ月 □兼任研修 →どの研修と組み合わせるか（ ） 週あたり研修日数（ ）日、研修期間（ ）カ月 ※兼任研修の場合、「5. 概要」の「H. プログラムの全体構成」の記載との整合性を保つこと			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
ケアの内容			
■救急診療：外科系・小児を含む全科の主に軽症から中等症救急疾患の診療を経験する。			
施設要件 （下記のいずれかを満たす）			
■救命救急センターもしくは救急科専門医指定施設 ■救急科専門医等が救急担当として専従する一定の規模の医療機関（救急搬送件数が年に 1000 件以上）			
週当たり研修日数：（4～4.5）日			

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

領域別研修（救急科）の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数	
内容	ポートフォリオの作成支援・家庭医療カフェ/フェリス 島根県内の家庭医療後期研修医との週一回のテレビ会議による参加、教育レクチャー（家庭医の特徴、診療技術、地域包括ケアの意味など）を週0.5日行う。また、領域別研修（整形外科・精神科・産婦人科・耳鼻科・眼科・泌尿器科など）の外来研修も週0.5日並行して行う。
日数	上記を合計で0.5～1日/週

6-5. 領域別研修：救急科			
研修施設名2	島根県立中央病院	病院病床数（679）床	年間救急搬送件数（3,961）件
指導医氏名	山森祐治	有する専門医資格（日本救急医学会救急科 専門医 日本集中治療医学会集中治療専門 医 日本麻酔科学会麻酔科専門医・指導医 日本ペインクリニック学会専門医）	専従する部署（救命救急科）
ブロック研修、兼任研修のいずれかを選択し、□を塗りつぶす（■のように）			
■ブロック研修 →領域別研修（救急科）における研修期間（ 3 ）カ月			
■兼任研修 →どの研修と組み合わせるか （中央病院研修中の全期間可能、ブロック研修とも組み合わせ、ブロック研修3か月相当の期間） 週当たり研修日数（ 1 ）日、研修期間（ 3-18 ）カ月 ※兼任研修の場合、「5. 概要」の「H. プログラムの全体構成」の記載との整合性を保つこと			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
ケアの内容			
■救急診療：外科系・小児を含む全科の主に軽症から中等症救急疾患の診療を経験する。			
施設要件 （下記のいずれかを満たす）			
■救命救急センターもしくは救急科専門医指定施設			
■救急科専門医等が救急担当として専従する一定の規模の医療機関（救急搬送件数が年に1000件以上）			
週当たり研修日数：（ 4～5 ）日/週 ※ブロック研修の場合のみ記入。 ※救急科（本研修）は週に4日以上行わなければならない。 ※休日は含まない。			
救急科（本研修）の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数（週1日まで） ※ブロック研修の場合のみ記入。 ※並行して行う研修は総合診療専門研修Ⅰ・Ⅱ、内科は除く。			
内容	ポートフォリオの作成支援・家庭医療カフェ/フェリス 島根県内の家庭医療後期研修医との週一回のテレビ会議による参加、教育レクチャー（家庭医の特徴、診療技術、地域包括ケアの意味など）を週0.5日行う。また、領域別研修（整形外科・精神科・産婦人科・耳鼻科・眼科・泌尿器科など）の外来研修も研修状況に応じて、週0.5日並行して行う。		
日数	0.5～1日/週		

6-6. 領域別研修：その他						
研修領域	必修・ 選択別	ブロック・ 兼任の別	研修日数/週 (兼任の場合)	研修期間	研修施設名と 診療科名	指導医氏名
一般外科	□必修 ■選択	■ブロック □兼任	()日/週	(1)カ月	大田市立病院 外科	野宋 義博
整形外科	■必修 □選択	□ブロック ■兼任	(0.5)日/週	(3)カ月	島根大学医学部附属病院	内尾 祐司
精神科/ 心療内科	■必修 □選択	□ブロック ■兼任	(0.5)日/週	(3)カ月	島根大学医学部附属病院	堀口 淳
産科婦人科	■必修 □選択	■ブロック ■兼任	(0.5)日/週	(1-3)カ月	大田市立病院 産婦人科	榎原 研
皮膚科	■必修 □選択	■ブロック ■兼任	(0.5)日/週	()カ月	大田市立病院 皮膚科	水本 一生

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

泌尿器科	■必修 □選択	□ブロック ■兼任	(0.5) 日/週	(2) カ月	大田市立病院 泌尿器科	岸 浩史
眼科	■必修 □選択	□ブロック ■兼任	(0.5) 日/週	(2) カ月	島根大学医学部附属病院	大平 明弘
耳鼻咽喉科	■必修 □選択	□ブロック ■兼任	(0.5) 日/週	(1) カ月	島根大学医学部附属病院	川内 秀之
放射線科 (診断・撮影)	□必修 ■選択	■ブロック ■兼任	(0.5) 日/週	(1-2) カ月	大田市立病院 放射線科	杉原 正樹
臨床検査・ 生理検査	□必修 ■選択	□ブロック ■兼任	(0.5) 日/週	(1-3) カ月	大田市立病院 放射線科	杉原 正樹
リハビリ テーション	■必修 □選択	□ブロック ■兼任	(0.5) 日/週	(2) カ月	大田市立病院 リハビリテーション科	岩田 裕子
その他 (脳神経外科)	□必修 ■選択	■ブロック □兼任	() 日/週	(1) カ月	大田市立病院 脳神経外科	福田 稔
その他 ()	□必修 □選択	□ブロック □兼任	() 日/週	() カ月		

7. 後期研修医の評価方法（研修修了認定の方法も含めて、評価計画等具体的に）

基本的には、外来研修や病棟研修時の直接指導、またポートフォリオのチェックや振り返りなどを通して経験した症例の数や内容の確認などにより学習状況・到達度を確認する。

また外来診療のビデオレビュー、筆記試験、ポートフォリオチェック、360度評価による形成的評価を年に1回以上行う。

最終的に後期研修終了時には、外来診療の直接観察による評価、学会提出用の全ポートフォリオを確認することで、総合的評価を行い、後期研修プログラムの終了の可否を判定する。またそれらは年度ごとに見直しを行い、研修医の学習状況を考慮しながら、評価方法及び研修終了判定について検討していく。

8. プログラムの質の向上・維持の方法

島根県内の研修プログラム同士の後期研修医及び指導医間の交流の促進、後期研修医からの意見収集を継続的に行う。

指導医は、日本プライマリ・ケア連合学会や地域の医師会などが開催する研修会・勉強会への参加、時には県外講師を島根県に招待するイベントの開催、またFDやフェロウシップへの参加などにより指導医自身の成長を促しながら、後期研修プログラムの質の向上・維持を図っていく。